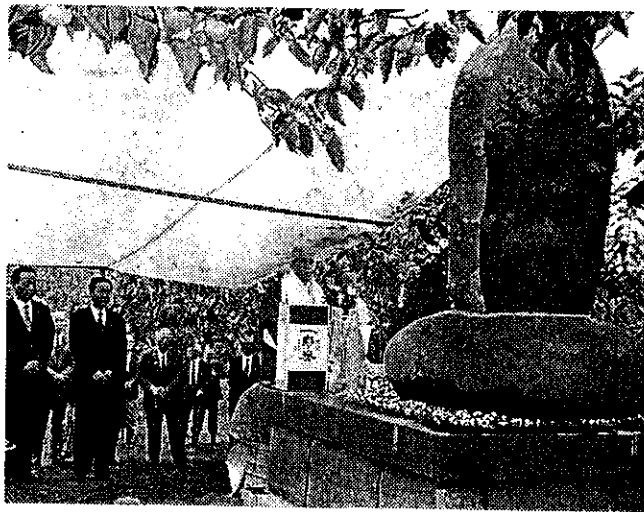


# 水戸藩 諸生党の供養塔建立

## 新潟県 西山町 地元の人中心に慰霊祭



三千年前の北越戦争で戦死した水戸藩諸生党の人々を供養する石塔が、新潟・茨城両県の有志によって建てられ、十二日、関係者が集まり慰霊祭を行った。供養塔建立の語は、遺骨が見つかった十二年前から出ていたが、天狗・諸生の激しい藩内抗争のしこりが残っていることを気にかける水戸市が対応を明らかにしなかったことから具体化せず、現在に至った。このため遺骨が出土した地区の人々が中心となり、建設準備を進め、これに県内からも協賛者が加わり、高さ約二メートルの立派な供養塔を完成させた。

# 灰爪の戦いで戦死

## 敗軍のためか忘れられ

はまちがいないようだ。地元には、灰爪で水戸藩士が多数戦死したとの話が伝わっており、水戸藩史料にも明治元年五月十四日、諸生党が政府軍と灰爪で戦い、四十九人が死んだとある。このため歴史研究者の多くは、発見された遺骨や「骨塚」が諸生党の戦死者とみている。多数の水戸藩士の戦没地となれば、しかもそれが天狗党ならぬ、すでに何らかの供養が行われたらうが、麓側についた敗軍の諸生党であったためか、遺族の間で供養の動きはなげ、西山町を通じ灰爪の人々から供養してほしいと求められた水戸市役所も対応しなかった。

遺骨が最初に発見されたのは昭和五十二年六月。新潟県刈明郡西山町灰爪のトマト畑で一体、翌年六月にも近くで二体見つかった。それを新潟大医学部が調査したところ、幕末期の遺骨で、刀傷があるものもあった。また北枕、胸に手を合わせた状態、古銭が頭の付近にあったことから埋葬されたのは戦死者らしい。遺骨の見つかった場所の近くには地元で「骨塚」と呼ばれる塚が四基あり、塚に多数の遺体が埋葬されているの

立派に完成した供養塔の前で行われた慰霊祭には水戸市から福島議長も出席

業委員会長、野口米治さん(左)、勝田市稲田、農業、稲田秀男さん(右)らが建設費の一部にと七十万円を本社に寄託。本社からの送金に荒木さんたちは「さきかた塔を建ててつもりでしたが、これで立派なものが増えられます」と感謝。供養塔を建てた。

慰霊祭には荒木さんら地元の人々をはじめ、駒野忠夫西山町長や本県から水戸市議会の福島区三議長、元議長の大槻栄寿市議、同地で戦没した水戸藩士大森金太郎のひ孫、大森信英さん、それに上野さんら合わせて約三百二十人が出席。

「豊やすらひ」と小高い丘の柿畑の中に建てた供養塔の前で慰霊祭が行われ、出席者が次々と焼香すると、地元の人が「これでやっと成仏できるぞ」と叫びだした。直会(なほらい)で駒野町長は「灰爪の方々の熱意と茨城の方からの援助で完成した立派な塔であり、地域の和の中心となるべき塔と思う。この地で戦没した尊には安らかに眠っていただきたい」とあいさつ。福島議長は「水戸が何もできなかったことをおわびしたい。皆さまの温かい気持ちで完成したことを感謝し、まず」と謝辞を述べた。